

令和 7 年 11 月 12 日
静岡県環境放射線監視センター

緊急時用高線量計の更新について

原子力災害発生時に住民避難等のOIL防護措置実施のための判断材料（空間放射線量率）を得る目的で、現在、UPZに74台の配備を行っている電子式線量計（下図参照）について、今年度（令和 7 年度）冬季に、以下のとおり機器老朽化に伴う更新を行う。

更新後の線量計を緊急時用高線量計と称し、現在、原子力規制庁が整備を進めている放射線モニタリングプラットフォーム（RAMP）に接続することでBCPの向上を実現する。

1 更新による変更点

	現行	更新後
サーバ・監視機能	線量率データの収集に関して複数のサーバを経由するなど結節点があり、当該サーバについて必ずしも 2 重化されていなかった。 環境放射線監視センター建屋が万が一倒壊した場合、データの収集・閲覧ができなくなる可能性が高かった。	国が整備するクラウド基盤である、可用性の高い RAMP に線量率データを直送することで不要な結節点を減じる。 RAMP の特性としてインターネット回線を用いるため、万が一環境放射線監視センター建屋が倒壊したとしても監視の継続が可能。
データ通信	2 重化（携帯、衛星）しているが、衛星が従量回線採用であるため、経済性の観点で平常時に使用できず、緊急時に本当に使用できるかという不安があった。	引続き 2 重化（携帯、衛星）を行い、衛星について新たに定額回線を採用することで平常時からの通信使用を実現し、ネットワークの信頼性を確保する。

2 更新スケジュール

12～1 月：現地への測定器設置（新たな常設化地点としての菊川 3A、掛川 12A、及び袋井 1A を含む。）

3 月：データ公開（12～2 月の間も監視を継続するが、RAMP 構築のため住民へのデータ公開は一時停止する見込み。新たな住民へのデータ公開については、現在原子力規制庁が整備を進めている新 RAMIS 公開系 Web サイト（URL については現在調整中）。）

3 市町への依頼事項

- 12～1 月に行う現地設置に関して、常設化地点・保管倉庫の現地管理者への連絡・調整をお願いします（別途当センターから依頼予定）。測定機器の重量があるため、車両を用いた搬入経路の確保等について御理解ください。
- 例年、1 月に予定している静岡県原子力防災訓練においては更新の過渡期ということもあり、訓練企画への組み込みが困難なケースもあると思われますが、御容赦願います。



電子式線量計（現行）